

令和5年度 都城市立有水小学校 後期学校自己評価とその改善策

		達成の割合				肯定的回答 (A+B)		学校自己評価(校長)		学校関係者評価(学校運営協議会) A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)		総合評価													
		児童の判断基準(%)				肯定的回答 (A+B)		評価		評価内容															
		職員・保護者の判断基準(%)				肯定的回答 (A+B)		評価		評価内容															
学習	1	考えの伝達	児	80%	14%	4%	2%	A	○児童に自信をもって発言できるように、発表集会等で感想を伝える機会を増やしたことで、自分の言葉で表現できるようになってきている。	A	・先生方の児童に対して、日々の努力に感謝するばかりである。自宅でも親と子供が共に机で宿題に取り組んでおり、学力・学習は、三者の頑張りだと思う。タブレット教育は、子供たちと積極的に取り組んでいる。家に帰ってきたら、親も不在なので、まずは、ゲーム・動画、又は、こたつで昼寝が習慣になっているようである。	A													
			教	33%	67%	0%	0%						100%												
			保	38%	47%	15%	0%						85%												
	2	タブレット積極的活用	児	80%	18%	2%	0%						98%	○適材適所で必要に応じて活用できるような場面を設けたことで、ほとんどの児童が進んで活用できている。	B	・学習について、児童と教師、保護者の違いが気になる。児童は、教師・保護者が思っている以上に、自分は学力向上していると実感し、自信を持っているのだと思います。	33%								
			教	44%	44%	12%	0%						88%												
			保	44%	44%	9%	3%						88%												
	3	漢字や計算の定着	児	73%	19%	6%	2%						92%					○それぞれの学級で、定着を図るための手立てとして、小テストなどを行ってきたことで、確実に力をつけてきている。	C	・タブレットは、ほとんどの児童ができていており、今後とも積極的に活用させてほしい。	0%				
			教	22%	78%	0%	0%						100%												
			保	32%	65%	3%	0%						97%												
	4	家庭学習の工夫・点検	児	50%	26%	14%	10%						76%									○振り返り習慣を設け、結果を懇談で話題にしてきたことで、より意欲的に取り組めるようになってきた。今後は、個別最適化の視点で工夫をしていく。	D	・読書について、保護者の評価が気になるが、家庭において親の前であまり行っていないのではと思われる。しかし、親も多忙であり、聞く機会が少ないのではとも思える。	0%
			教	38%	50%	12%	0%						88%												
			保	47%	38%	15%	0%						85%												
5	1日1回読書	児	48%	32%	14%	6%	90%	○様々な取組によって読書の楽しさを実感してきている児童が多い。教員も一緒に読書をするすることで、本に親しむ機会を今後も設定していく。	D	・全体として、A評価が最も多いが、個々に見ると、(教)は、圧倒的にBが多く、(保)もBの傾向が強い。(児童)なりに、満足し、肯定的には育まれているだろうが)さらなるボトムアップ(B評価の児童がA評価となるような現行の取組の推進)を期待している。	0%														
		教	43%	57%	0%	0%	100%																		
		保	30%	29%	32%	9%	59%																		
6	家読の取組	児	57%	27%	10%	6%	84%					○日頃から、本を読む習慣が身に付いている児童が多い。家読週間以外でも、継続して取り組んでいるよう興味深い本を紹介していく。	D	・クリーン作戦終了時、自らの意見を積極的に発表する児童が何人もいて感心した。	0%										
		教	38%	62%	0%	0%	100%																		
		保	41%	32%	24%	3%	73%																		
全体平均			47%	42%	10%	2%																			

生活	7	有水小 よい子のきまり	児	82%	18%	0%	0%	A	○決まりを守ろうとする意識は高まっており、あいさつもよくなってきている。今後は、委員会を活用して、会釈等にも力を入れていく。	A	・学校でのあいさつ、礼儀、感謝の表現など、先生達の取組のおかげで、他校よりは・・・と思う。欲を言えば、学校外で地域内の道路等で、出会う人たちに積極的に誰にでも軽く頭を下げる動作をすると、有水小のマナーの良さが表れるのではないだろうか。	83%									
			教	50%	50%	0%	0%						100%								
			保	53%	43%	2%	2%						96%								
	8	道徳の授業の実行	児	77%	23%	0%	0%						100%	○道徳の内容を振り返る場面を設定したことで、意識している児童も多くなった。しかし、まだ個人差が多いので、継続して取り組んでいく。	B	・あいさつが、よく出来、礼儀正しい児童が多い。家庭でもしっかりできれば満点である。	17%				
			教	25%	75%	0%	0%						100%								
			保	35%	59%	6%	0%						94%								
	9	思いやり行動	児	84%	14%	0%	2%						98%					○学校全体を見て、思いやりのある行動は、とても増えてきている。有友チームの更なる活用を目指していく。	C	・生活面については、朝の登校見守り活動を通して、あいさつはよくできていると思う。また、有友チームの存在が思いやりの行動につながっていると思うので、更なる活用をお願いしたい。	0%
			教	44%	56%	0%	0%						100%								
			保	65%	32%	3%	0%						97%								
	10	学校が楽しい 自己存在感を味わわせる 楽しく登校	児	86%	9%	5%	0%						95%								
教			33%	67%	0%	0%	100%														
保			77%	21%	2%	0%	98%														
全体平均			59%	39%	2%	0%															

体育・保健	11	体育や昼休みの運動	児	80%	14%	4%	2%	A	○外遊びが好きな児童が多い。昼休みに外で遊ぶことができるよう、声掛けを継続していく。	A	・ゲーム動画の時間が多くて、唯一学校での昼休みの外遊びが大事である。学校での行動は、特に問題点はないであろうが、自宅での生活面、親との接する時間が少ない分、家庭での責任が大事である。	17%																	
			教	50%	50%	0%	0%						100%																
			保	47%	50%	0%	3%						97%																
	12	早寝・早起き 早寝・早起への声かけ 早寝・早起き	児	43%	39%	12%	6%						82%	○ゲームや動画等で睡眠時間が確保できていない児童が増えてきている。早寝早起きだけでなく、メディアとのかわり方についても指導をしていく。	B	・学校だけではなく、家庭内でもできる運動、歯みがき、食事マナーを親子で取り組めればよいと思う。	66%												
			教	63%	25%	12%	0%						88%																
			保	24%	65%	11%	0%						89%																
	13	立腰	児	30%	50%	18%	2%						80%					○養護教諭を通して、具体的に各学級で具体的指導を行ったことで以前よりも姿勢保持を意識している児童は増えてきている。	C	・歯みがきで、保護者の35%がC評価をしており、気になる。	0%								
			教	11%	89%	0%	0%						100%																
			保	15%	59%	24%	2%						74%																
	14	歯みがき	児	73%	23%	2%	2%						96%									○週末の歯磨きができないなったり、歯ブラシコップ忘れのために学校での取組ができなかった児童も見られた。チェックし、取組の充実を図っていく。	D	・体育の授業において、体育館の開場から準備、運動までの一連を児童間で協力して、とても楽しげに行っていた。また、体育の授業でも、有友チームなど、上下関係なく、体を動かすことが出来ており、今後とも、この環境で子供を学ばせたいと感じた、得意・不得意に関係なく、だれ一人つまらぬような児童はいなかった。	0%				
			教	43%	43%	14%	0%						86%																
			保	27%	38%	35%	0%						65%																
	15	食事マナー・好き嫌い	児	70%	20%	10%	0%						90%													○給食では、苦手なものにも少しずつ食べられるようになってきているが、家庭では食べていないのではないだろうか。食育指導で改善を図っていく。	無17%	・教師が入ってくる前から、それぞれのいろんな運動を自ら行っていて、日頃から指導者・子供たちの意識の高さに感心した。	0%
			教	50%	38%	12%	0%						88%																
			保	27%	59%	14%	0%						86%																
全体平均			44%	44%	11%	1%																							

その他	16	中学生との積極的取組	児	70%	20%	10%	0%	A	○児童は、中学生との交流を楽しみにしており、お互いに積極的にふれあう姿が見られた。今後も中学校と連携していく。	A	・第4回学校運営協議会の写真とふるさと学習の内容からしても、評価は大きです。	100%					
			教	100%	0%	0%	0%						100%				
			保	55%	42%	3%	0%						97%				
	17	地域学習への意欲	児	93%	5%	2%	0%						○地域コーディネータの設立によって、各学年、地域人材活用・地域学習へ取り組みやすくなった。	B	・コロナの5類以降に伴い、地域の歴史や伝統文化の継承、また、ミシン操作の補助や昔の遊びの伝承など、地域と学校との取組ができるようになった。	0%	
			教	100%	0%	0%	0%										100%
			保	53%	44%	3%	0%										97%
	18	学校便り・学級通信等	児	77%	21%	2%	0%										○学校・教師は、積極的な情報発信をしており、児童・保護者もその情報発信について、高い評価をしている。
教			88%	12%	0%	0%	100%										
保			74%	26%	0%	0%	100%										
全体平均			79%	19%	2%	0%											

学校評価者評価を踏まえた今後の方策	<p>1「確かな学力の向上」については、タブレットについては、児童の技能向上に伴い、評価項目の内容も段階をレベルアップしていく。家庭学習や読書については、どの場面(学校、家庭)でも同じ姿が見られるように保護者と連携をとっていく。また、教師と保護者で、評価の差が大きくなるように、項目内容の検討を行う。</p> <p>2「豊かな心の育成」については、校外でも学校と同じ姿(決まりを守ろうとする姿・道徳の授業の内容を振り返る姿等)が見られるように意識を高めていく。今後とも、小規模校のよさを見出し、下級生から上級生まで、仲良く思いやりをもって楽しく学校生活が送れるように努めていく。</p> <p>3「たくましい体の育成」については、自分の生活習慣をしっかりと整え、意識しながら過ごせるよう、保健指導や体力向上のための取組を推進していく。また、学校での取組が家庭でも継続して行えるよう、学校保健委員会や保健だより等からも啓発を促し、保護者の意識の高揚を図っていく。</p> <p>4「開かれた学校づくりの推進」については、今後とも小中合同での取組を継続していく。また、今年度設立した地域コーディネーターを中心に、地域学習の充実を図っていく。こうした取組を今後とも積極的に情報発信を行い、児童の自信とやる気の育成に努めていく。</p>
-------------------	--